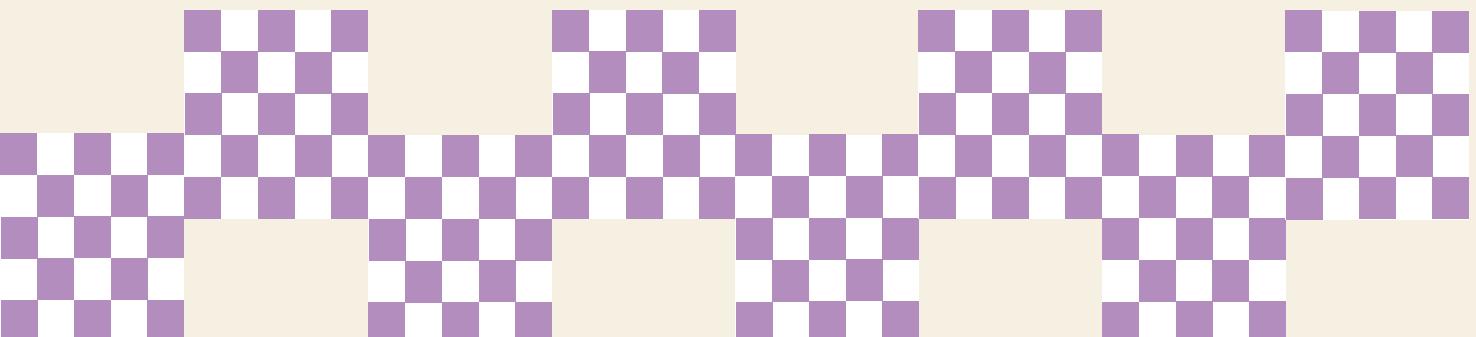
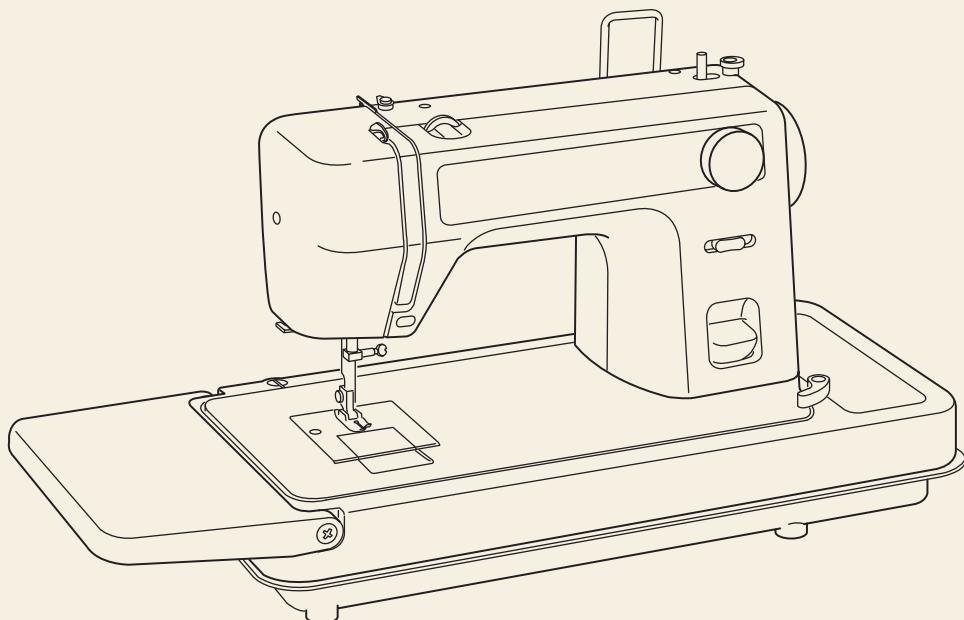


# 取扱説明書

396型PD（直線ミシン）  
【396型】



**JANOME**

# 安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

危害・損害の程度を表わす表示	 <b>警告</b>	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 <b>注意</b>	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
----------------	---	-------------------------------------	---	---

本文中の図記号の意味		△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
		🚫 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
		● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 <b>警告</b>	感電・火災の原因になります。
 禁止	ストーブ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5°C ~ 35°C です。
 禁止	スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
 禁止	電源コードやフットコントローラーのコードを傷つけたり、加工したり、はさみ込んだり、たばねたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、重い物をのせたり、高温部に近づけたりしないでください。 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
 必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
 必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

 <b>注意</b>	感電・火災・けがの原因になります。
 分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。
 接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 禁止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
 禁止	曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。
 禁止	ミシンの通風口はふさがないでください。

 <b>注意</b>	感電・火災・けがの原因になります。
 禁止	このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の専用電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。
 禁止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。 また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
 注意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 必ず実行	ミシンを持ち運ぶときは、必ず両手でミシンを持ってください。
 必ず実行	プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
 必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
 必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 必ず実行	以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 必ず電源プラグを抜く	以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
 必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い、音がするとき ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき

# 目次

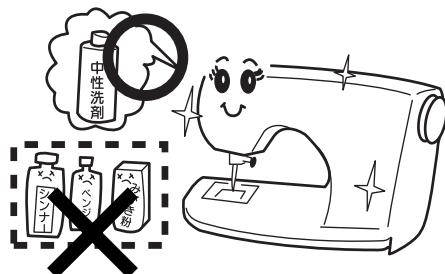
お取りあつかいについてのお願い.....	2
1 各部のなまえ.....	3
2 標準付属品 <small>ひょうじゅんふぞくひん</small> .....	4
3 押さえの外し方、付け方 .....	4
4 電源のつなぎ方 .....	5
5 スタート / ストップボタン .....	6
6 返しぬいスタート .....	6
7 速さの調節のし方 .....	6
8 針の取りかえ方 .....	7
9 布と針と糸の関係 .....	7
10 糸調子の合わせ方 .....	8
11 押さえ上げ .....	8
12 ぬい目のあらさダイヤル .....	9
13 下糸の準備.....	10、11
14 上糸のかけ方.....	12
15 下糸の引きあげ方 .....	12
16 直線ぬい .....	13
17 ファスナー付け .....	14、15
18 ミシンのお手入れ .....	16
19 ミシンの調子が悪いときの直し方 .....	17～19

# お取りあつかいについてのお願い

## ◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前にかわいたやわらかい布でよくふいてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

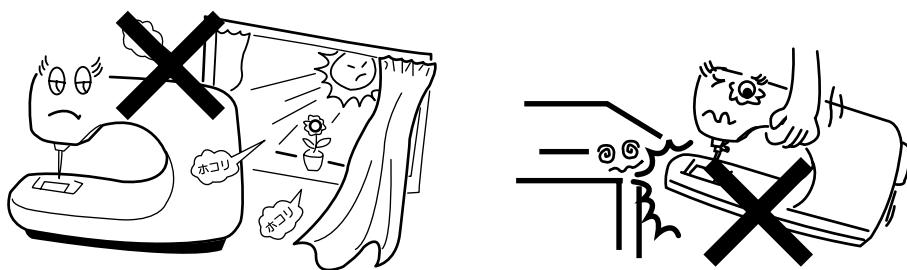


## ◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところはさけてください。

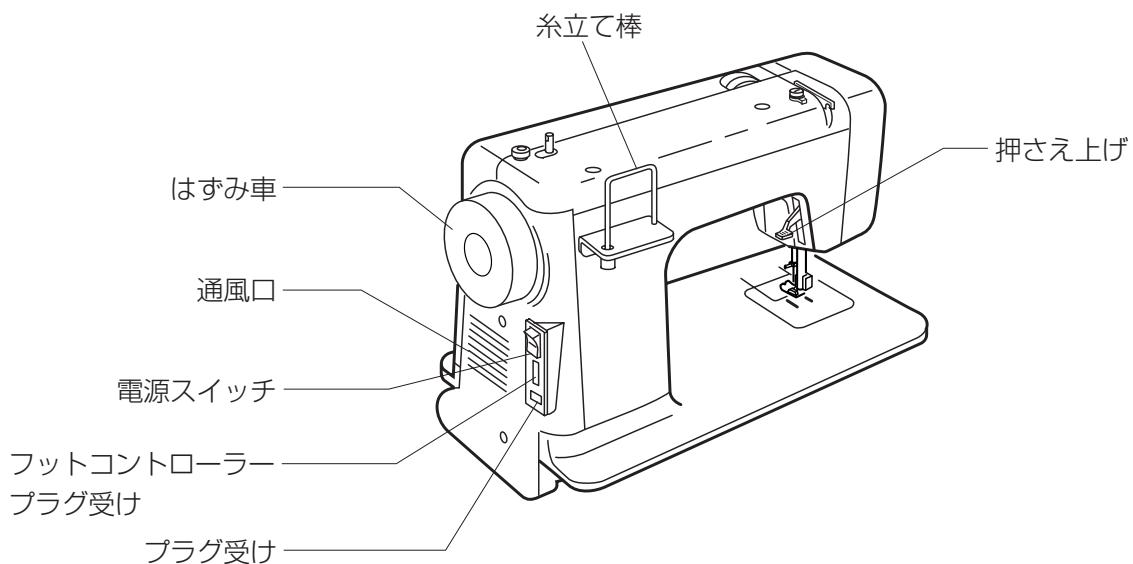
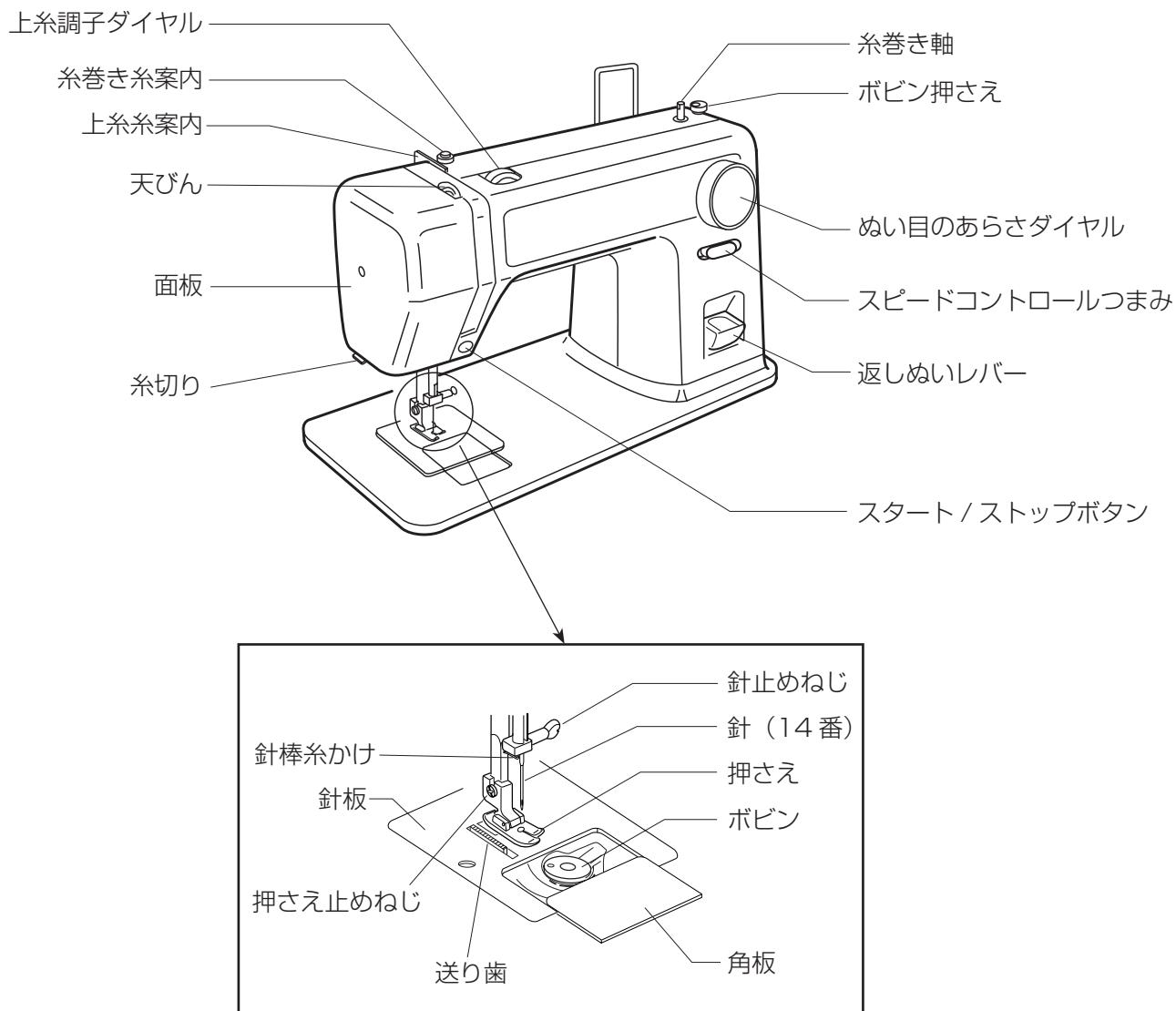
③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。  
ミシンを持ち運ぶときは、必ず両手でミシンを持ってください。



## ◇修理・調整についてのご案内

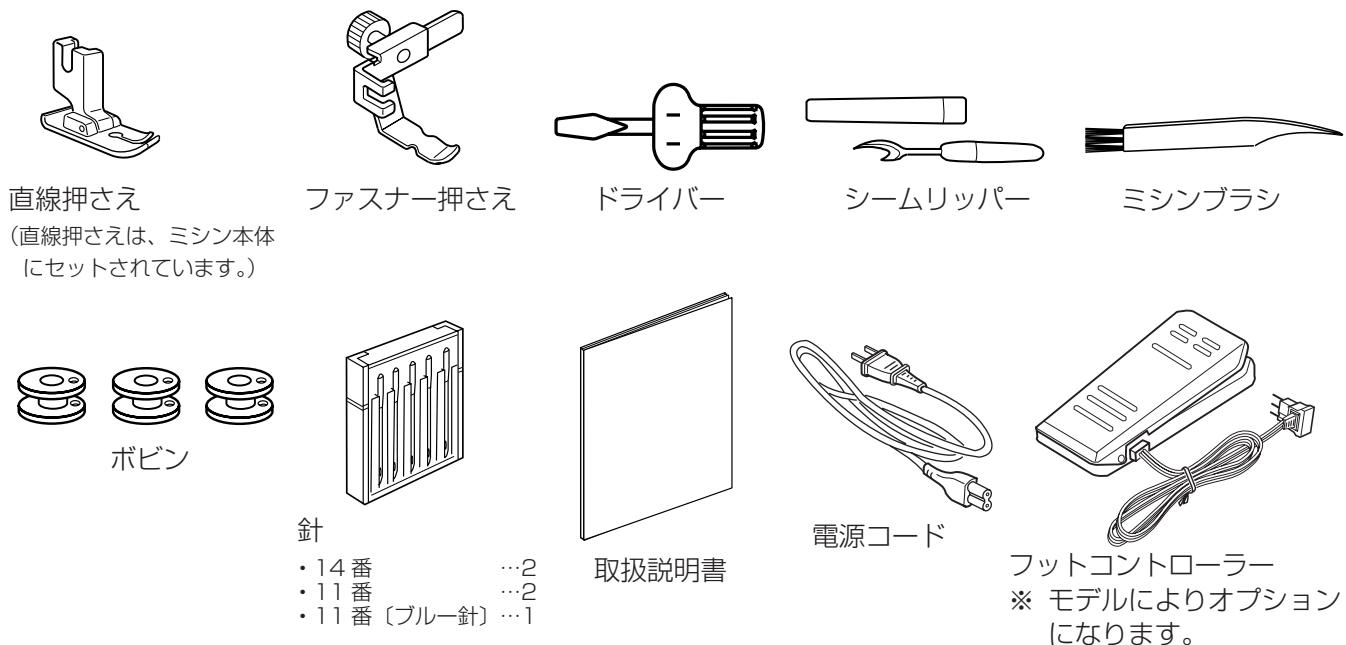
万一不調になったり、故障を生じたときは、「19 ミシンの調子が悪いときの直し方」(17~19 ページ)により点検・調整を行ってください。

# 1 各部のなまえ



※ 製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。  
※ ミシンを持つときは、必ず両手で持ってください。

## ひょうじゅんふぞくひん 2 標準付属品



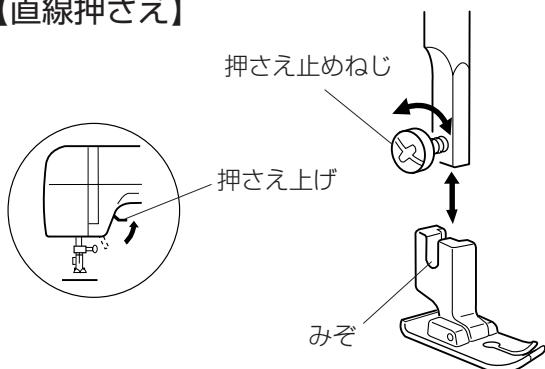
## 3 押さえの外し方、付け方

### ⚠ 注意

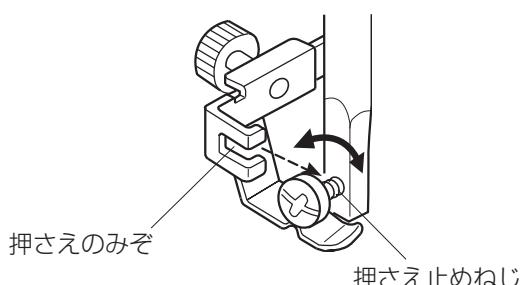
押さえの交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。

押さえ上げをあげます。「11 押さえ上げ」(8 ページ) 参照。

#### 【直線押さえ】



#### 【ファスナー押さえ】



#### 【外し方】

押さえ止めねじをドライバーで左にまわしてゆるめ、押さえを外します。

#### 【付け方】

- ① 押さえのみぞを押さえ止めねじにつきあて、押さえ止めねじを右にまわして軽くしめ、押さえを仮止め（しっかり固定する前に、外れないでいどに固定）しておきます。
- ② 押さえ上げをさげ、押さえ止めねじを一度少しゆるめてから、押さえが針板に押し付けられた状態で押さえ止めねじをドライバーでしっかりとしめます。

#### 【付け方】

- ① 直線押さえを外します。
  - ② 押さえのみぞをうしろ側から押さえ止めねじに合わせ、押さえ止めねじを右にまわして軽くしめ、押さえを仮止めしておきます。
  - ③ 押さえ上げをさげ、押さえ止めねじを一度少しゆるめてから、押さえが針板に押し付けられた状態で押さえ止めねじをドライバーでしっかりとしめます。
- ※ 取り付け後、押さえがかたむいていない事を確認してください。針が押さえにあたり、けがの原因になります。

#### 【外し方】

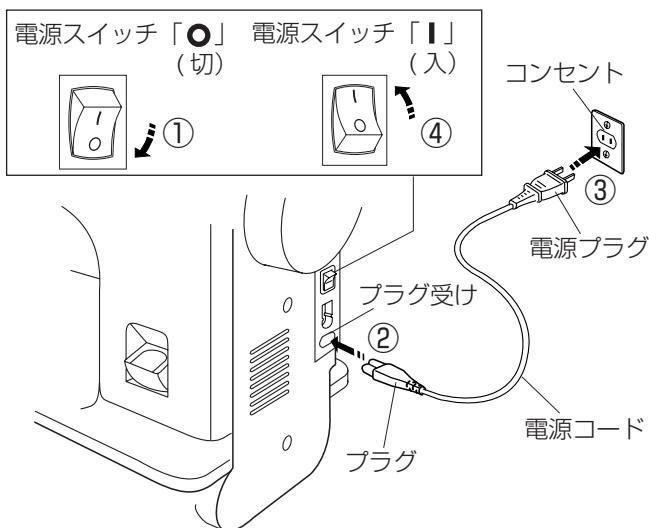
押さえ止めねじをドライバーで左にまわしてゆるめ、押さえを外します。

## 4 電源のつなぎ方

### ⚠ 警告

- ・ 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
- ・ ミシンを使わないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。  
感電・火災の原因になります。
- ・ 電源プラグは定期的にかわいた布でふき、ほこりなどを取りのぞいてください。  
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり火災の原因になります。

#### 【スタート / ストップボタンを使用するとき】



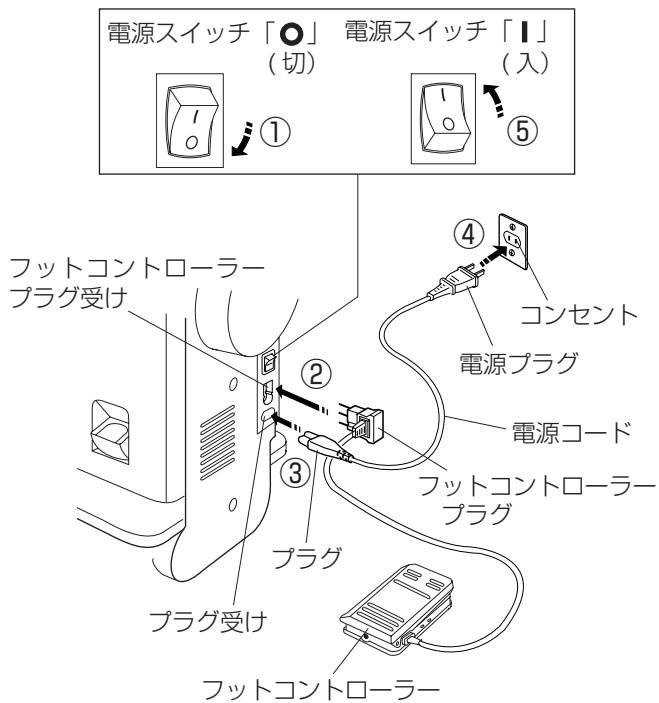
① 電源スイッチの「○」側を押して、電源を切ります。

② 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。

③ 電源コードの電源プラグをコンセントに差し込みます。

④ 電源スイッチの「|」側を押して、電源を入れます。

#### 【フットコントローラーを使用するとき】



※ フットコントローラーを接続したときは、スタート／ストップボタンは使用できません。

※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

① 電源スイッチの「○」側を押して、電源を切ります。

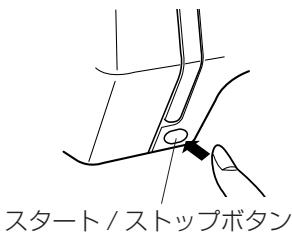
② フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。

③ 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。

④ 電源コードの電源プラグをコンセントに差し込みます。

⑤ 電源スイッチの「|」側を押して、電源を入れます。

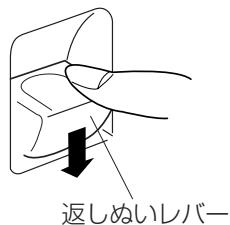
## 5 スタート / ストップボタン



押さえ上げをさげ、ボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてからスピードコントロールつまみでセットした速さになります。  
もう1度押すと、針が上の位置で止まります。

※ 押さえ上げをさげないでスタート / ストップボタンを押すと「ピピピッ」と警告音が鳴りミシンは動きません。押さえ上げをさげて、スタートしてください。「11 押さえ上げ」(8 ページ) 参照。

## 6 返しみいスタート



### 【停止中の返しみい】

返しみいレバーを押すとゆっくり返しみいをはじめます。  
指をはなすと止まります。

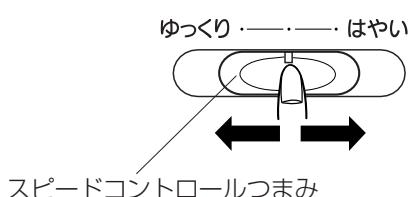
### 【運転中の返しみい】

返しみいレバーを押している間返しみいをし、指をはなすと前進ぬいにもどります。

※ 不用意に返しみいレバーにふれると、ミシンが動きだしますので注意してください。

## 7 速さの調節のし方

### 【スタート / ストップボタン使用のとき】

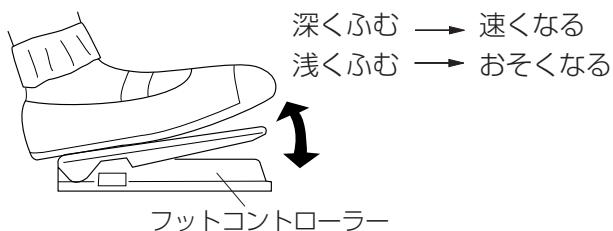


スピードコントロールつまみを動かし、ぬい速度を調節します。

左側にすると遅く、右側にすると速くなります。

※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んだときの最高速度を調節できます。

### 【フットコントローラー使用のとき】



フットコントローラーのふみかげんで、ぬう速さが調節できます。

※ スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

初心者の方が細かいものをぬうときなどは低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱいに踏み込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

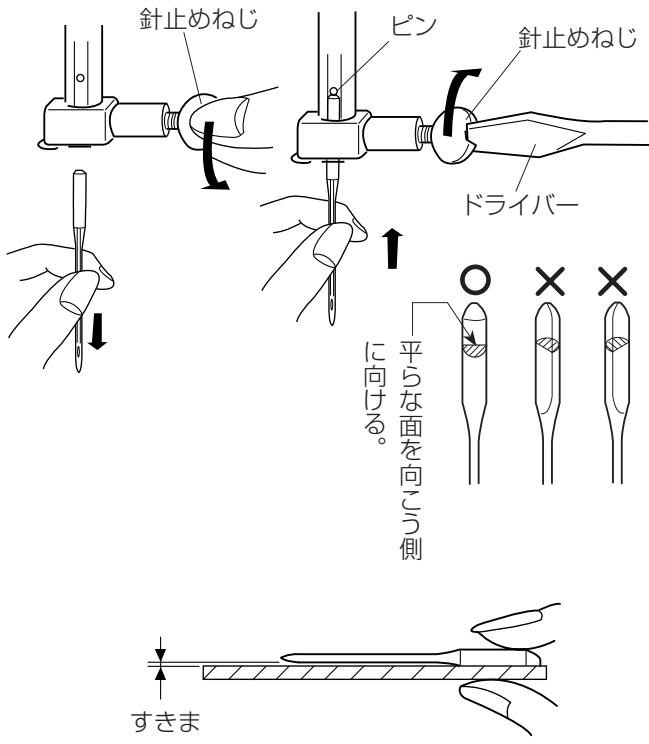
### ⚠ 注意

- ・ フットコントローラーの上に物を乗せないでください。けがや故障の原因になります。
- ・ フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。  
動作不良を起こし、けが、故障の原因になります。

## 8 針の取りかえ方

### ⚠ 注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。けがの原因になります。



- ① はずみ車を手前にまわして針を上にあげます。
- ② 針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針を外します。
- ③ 針を取り付けるときは、平らな面を向こう側に向けてピンにあたるまでいっぱいに差し込みます。
- ④ 針止めねじをドライバーでしっかりとしめます。

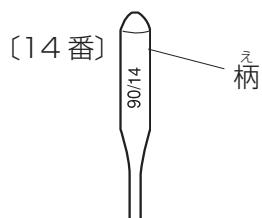
### 【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。  
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

## 9 布と針と糸の関係

布	針	糸
うすい布 (ローン、 ジョーゼットなど)	9番～ 11番	ポリエステル 90番
ふつうの布 (シーチング、 ジャージーなど)	11番～ 14番	ポリエステル、ナイロン 50～90番 綿糸 60番
	14番	綿糸 50番
厚い布 (デニム、 ツィードなど)	14番～ 16番	ポリエステル 40～50番 綿糸 40～50番
	16番	ポリエステル 30番 綿糸 30番

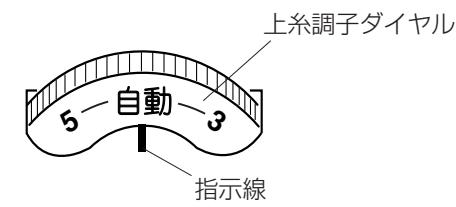
- \* いっぽん 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。  
この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。
- \* 通常は、上糸と下糸は同じものを使用してください。
- \* のびやすい布や目とびしやすい布をぬうときには、ブルー針〔11番〕(柄の部分が青色の針)を使うと目とび防止効果があります。
- \* 針の太さを示す番号は、柄に表示してあります。  
数字が大きくなれば太くなります。



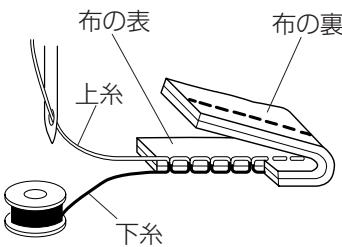
# 10 糸調子の合わせ方

## 【自動糸調子】

このミシンは、通常上糸調子ダイヤルの「自動」を指示線に合わせると、バランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。



バランスのとれた糸調子



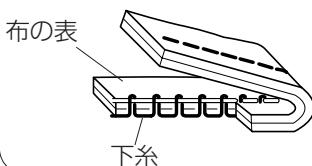
直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

## 【マニュアル糸調子】

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、上糸調子ダイヤルをまわして調節します。

### 上糸が強すぎるととき

下糸が布の表に出ます。

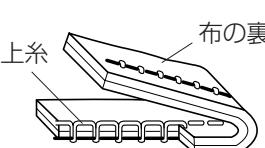


上糸調子ダイヤルをまわして、数字を小さくします。

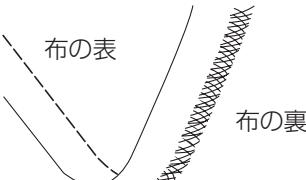


### 上糸が弱すぎるととき

上糸が布の裏に出ます。



上糸調子ダイヤルをまわして、数字を大きくなります。

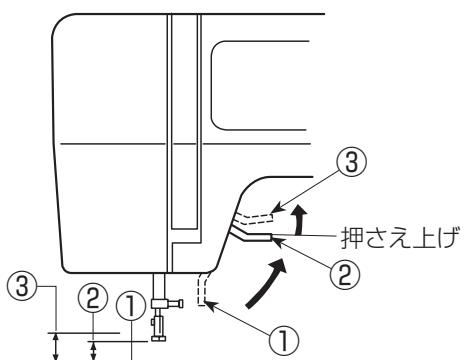


### 布地の裏がタオル地のようになる場合

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるのは、上糸の糸調子が弱いか、上糸のかけ方がまちがっています。上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。

「14 上糸かけ」(12 ページ) 参照。

# 11 押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。

普通にあげた位置よりさらに高くあげることもでき、厚い布を入れるときなどに利用できます。

① さげた位置

…ぬうとき

② 普通にあげた位置

…布のセットや取り出し、上糸かけ、押さえの交換のときなど

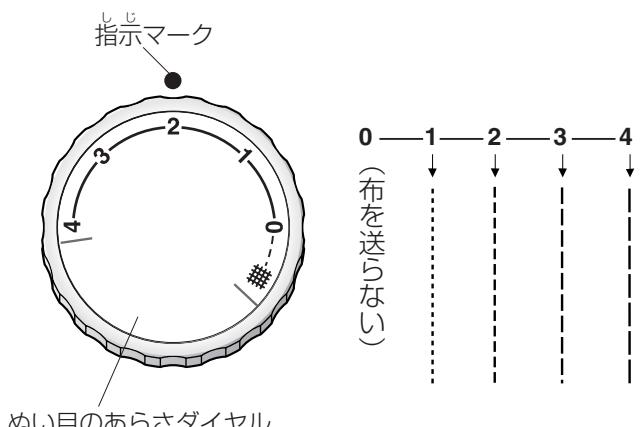
③ さらにあげた位置（固定されません。）

…厚い布を入れるときなど

\* 押さえ上げをさげないでミシンをスタートさせようとすると安全装置がはたらいてミシンがスタートできないようになっています。

# 12 ぬい目のあらさダイヤル

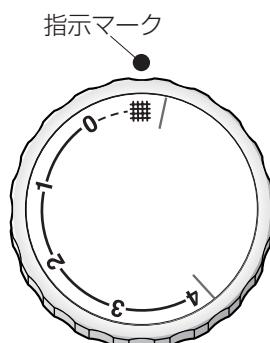
## 【ぬい目あらさの選び方】



ぬい目あらさダイヤルをまわして、数字を指示マークに合わせます。

数字が大きくなると、ぬい目はあらくなります。

## 【送り歯をさげるとき】



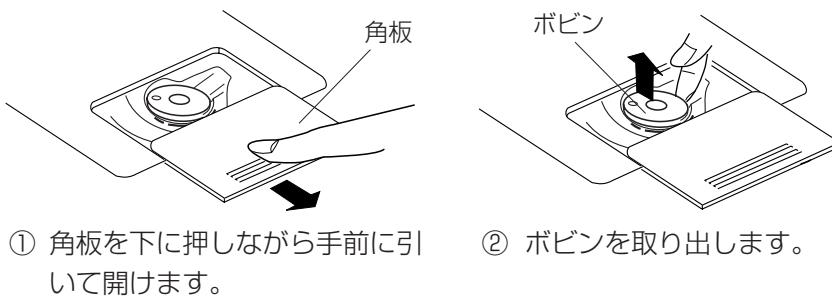
ぬい目あらさダイヤルをまわして、**###**を指示マークに合わせます。  
送り歯がさがってミシンが布を送らないようになります。

※ 送り歯をあげるときは、ぬい目あらさダイヤルをほかの位置にセットします。

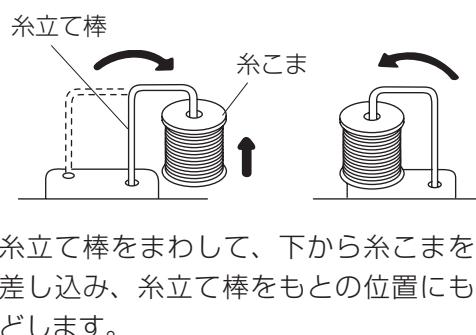
ミシンが動くと、送り歯は自動的にあがります。

# 13 下糸の準備

## 【ボビンの取り出し方】



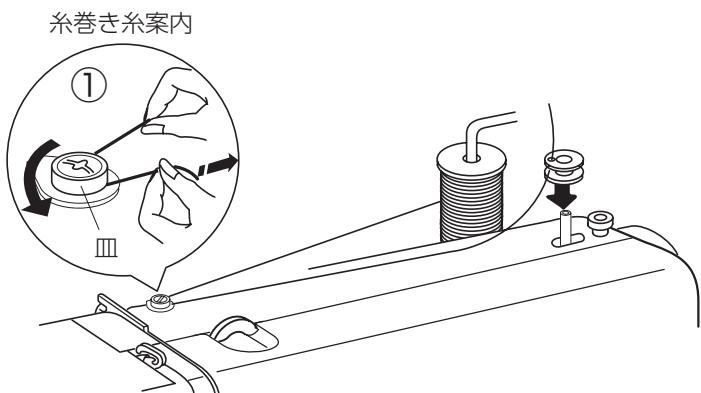
## 【糸こまのセット】



## 【下糸の巻き方】

※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

(スピードコントロールつまみは、「はやい」 にセットします。)

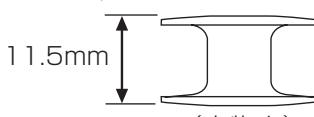


① 糸こま側の糸を押さえ、糸巻き糸案内にうしろ側から手前にまわして、矢印方向に引いてかけます。

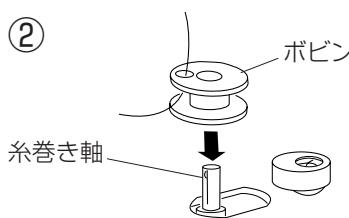
※ 糸を皿の下に確実に入れてください。糸が皿の下に確実に入っていないと、均等に巻くことができません。

### お願い

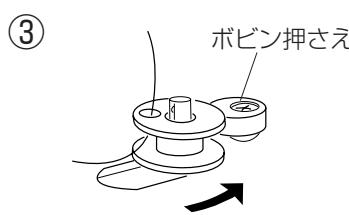
ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)



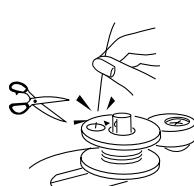
金属ボビンは使用しないでください。  
かまにマグネットを使用しているので、糸調子が出なかったり、故障の原因になります。



② ボビンの穴に内側から糸を通し、ボビンを糸巻き軸に差し込みます。

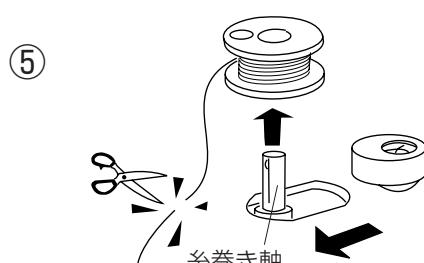


③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。



④ 糸のはしをつまんだまま、巻きはじめます。

糸がボビンに3重ぐらい巻きついたらミシンを止めて穴のきわで糸を切れます。



⑤ 巻き終わったら、ミシンを止めます。

糸巻き軸をもとにもどし、ボビンを外して糸を切れます。

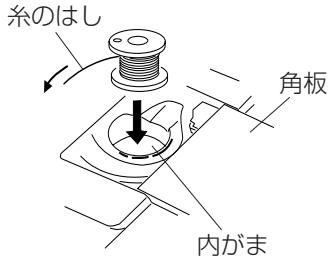
\* 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

## 【ボビンの入れ方】

### ⚠ 注意

ボビンを内がまに入れるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。  
けがの原因になります。

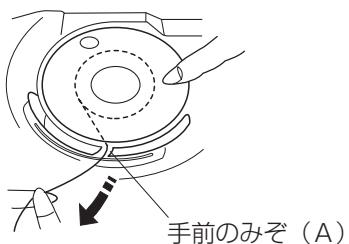
①



- ① 角板を下に押しながら手前に引いて開け、糸のはしを矢印方向に出して、ボビンを内がまに入れます。  
※ ボビンから引き出される糸の図が、角板に表示されています。



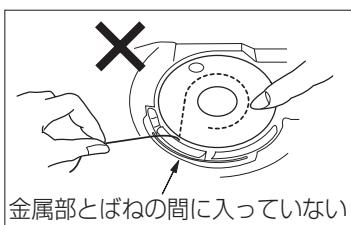
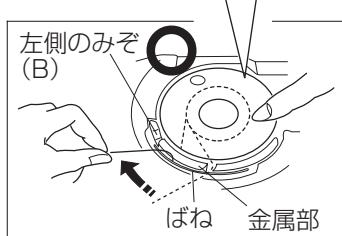
②



- ② 糸のはしを引きながら、手前のみぞ (A) にかけます。  
※ 糸をかけるときは、ボビンが回転しないように指でボビンを軽く押さえます。  
※ 各部に糸を確実にかけるために、下記手順④が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。

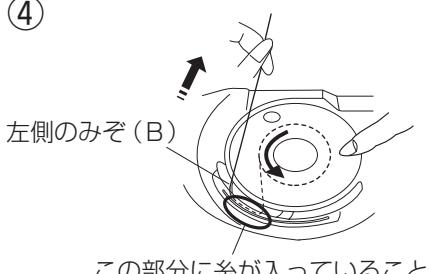
③

※ 糸をかけるときは、ボビンが回転しないように、指で押さえてください。



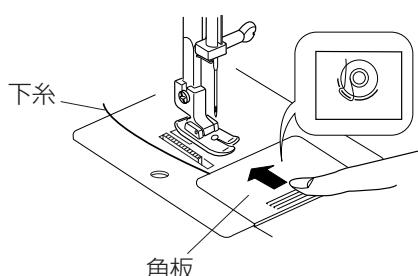
- ③ 糸の端を引き、金属部とばねの間を通して左側のみぞ (B) のところに出します。  
※ 手順②で、内がまの手前のみぞ (A) に糸がかかるっていない場合、内がまのばねと金属のあいだに糸が入りません。その場合は、手順②からかけ直します。  
※ 糸が正しくかけられないと、ぬい不良の原因となります。

④



- ④ 糸を左側のみぞ (B) にかけるようにして向こう側に出します。  
※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

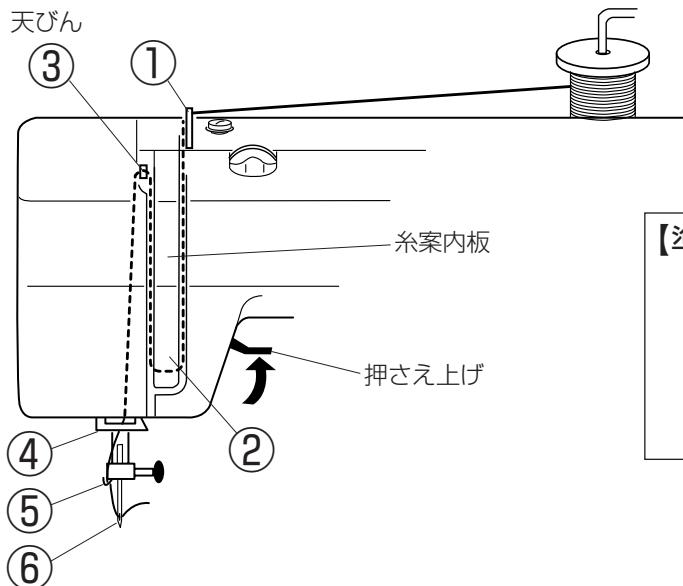
⑤



- ⑤ 下糸は 10cm ぐらい引き出して、角板をしめます。

## 14 上糸のかけ方

糸こまを押さえながら、①～⑥の順序で正しく糸をかけてください。



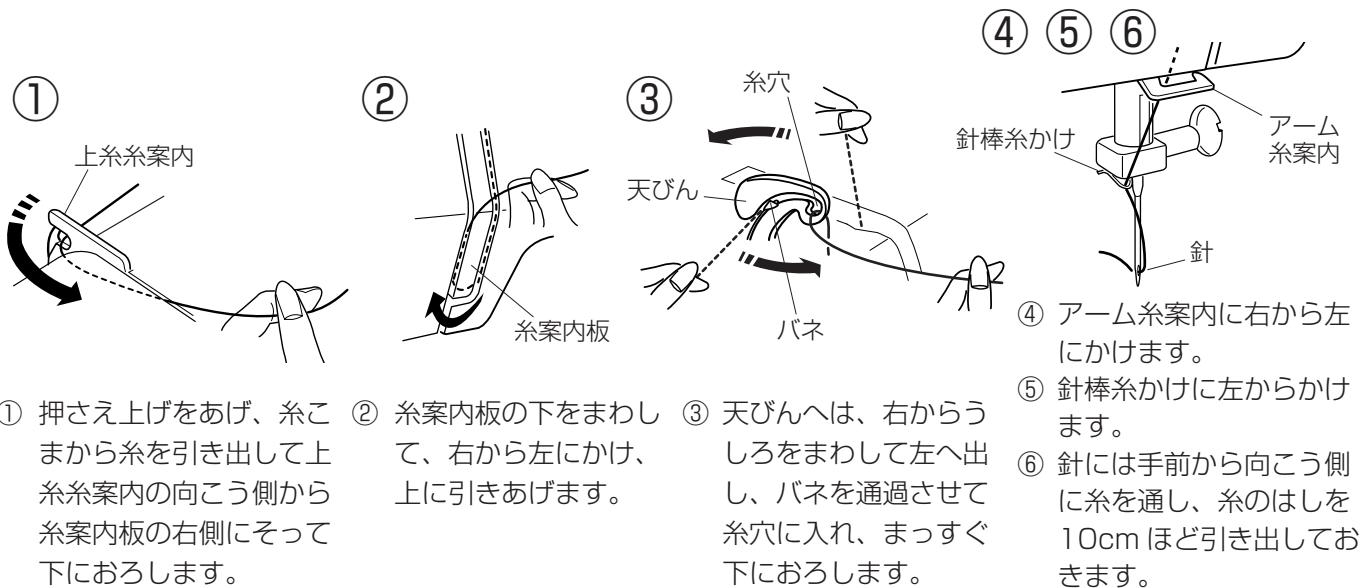
### 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。  
けがの原因になります。

**【準備】** 上糸をかける前に押さえ上げをあげ、はずみ車を手前にまわして天びんを上にあげます。



※ 各部に糸を確実にかけるために、常に右手で糸こま側の糸を軽く押さえながら、左手で強めに引いて上糸かけを行ってください。



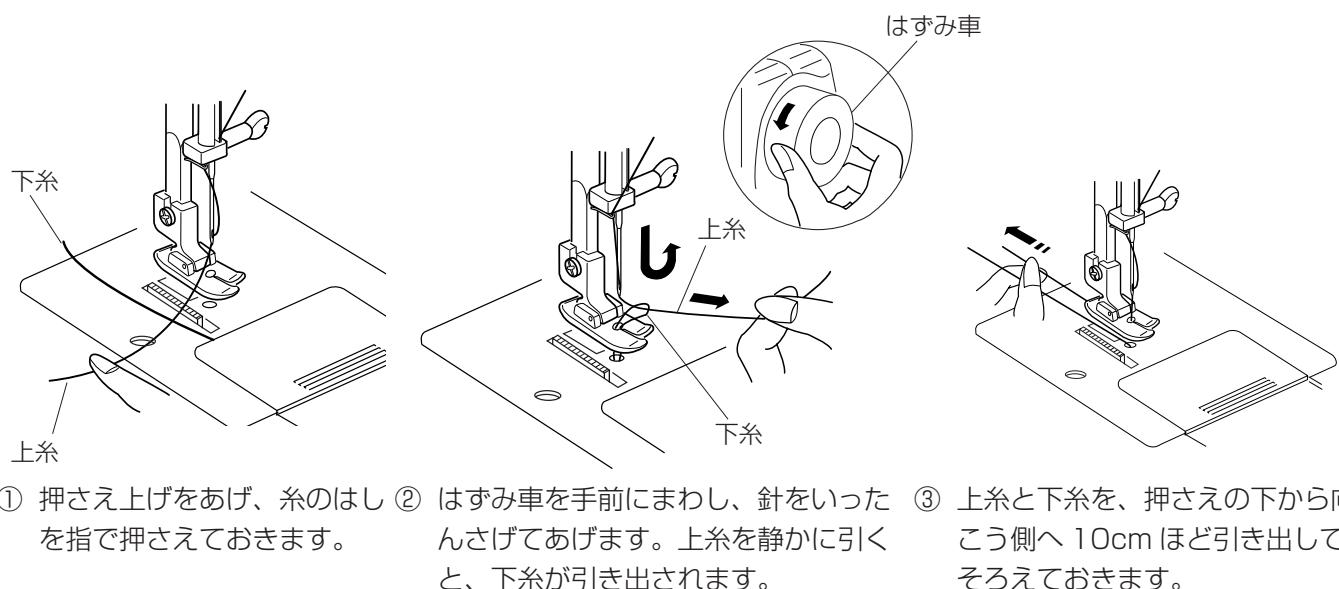
① 押さえ上げをあげ、糸こまから糸を引き出して上糸糸案内の向こう側から糸案内板の右側にそって下におろします。

② 糸案内板の下をまわして、右から左にかけて、上に引きあげます。

③ 天びんへは、右からうしろをまわして左へ出し、バネを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。

④ アーム糸案内に右から左にかけます。  
⑤ 針棒糸かけに左からかけます。  
⑥ 針には手前から向こう側に糸を通し、糸のはしを10cmほど引き出しておきます。

## 15 下糸の引きあげ方



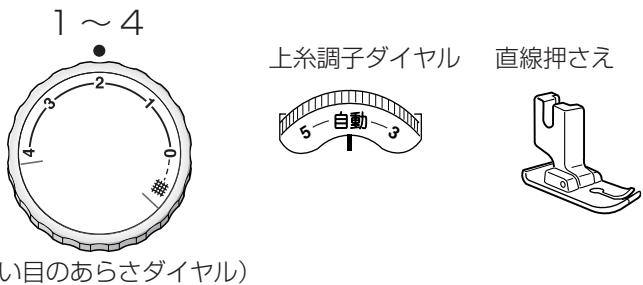
① 押さえ上げをあげ、糸のはしを指で押さえておきます。

② はずみ車を手前にまわし、針をいったんさげてあげます。上糸を静かに引くと、下糸が引き出されます。

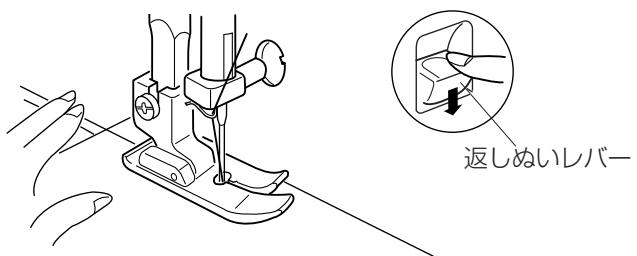
③ 上糸と下糸を、押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出して、そろえておきます。

# 16 直線ぬい

## 【セットのめやす】



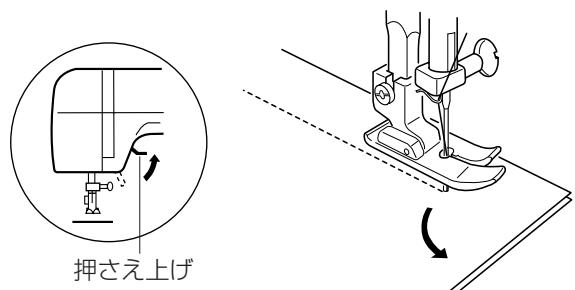
## 【ぬいはじめ】



上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押さえ上げをさげて、ぬいはじめます。

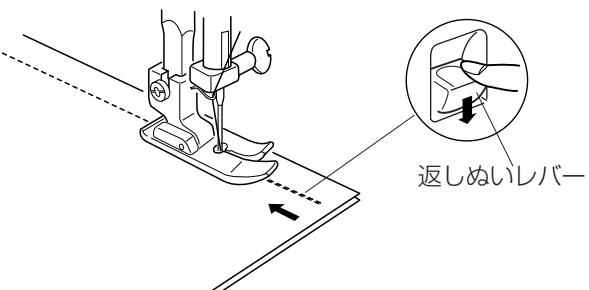
※ ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

## 【ぬい方向をかえる】

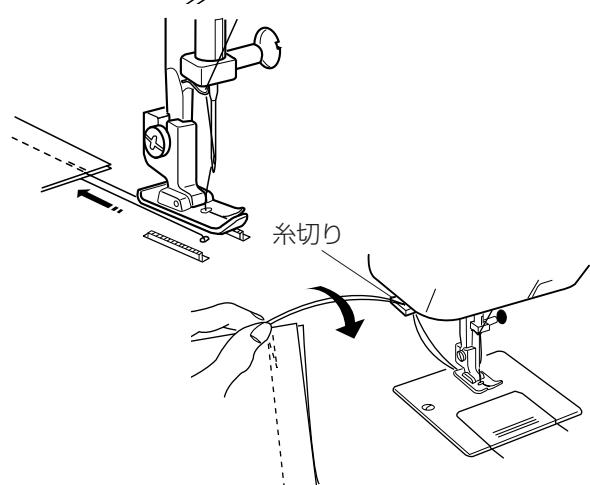


ミシンを止め、はずみ車を手前にまわし、針を布にさしたままで押さえ上げをあげ、布をまわしてぬい方向をかえます。

## 【ぬい終わり】

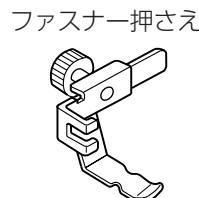
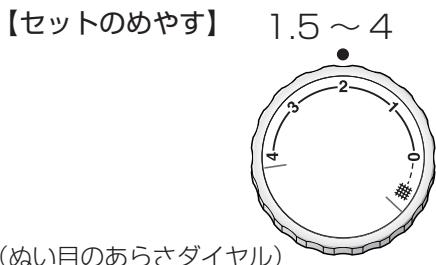


返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。



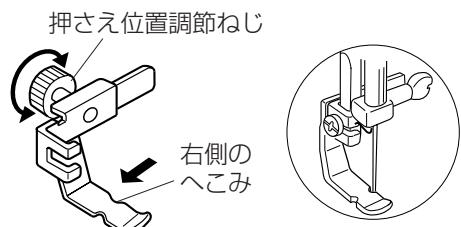
押さえ上げを上げて、布を向こう側に引き出して糸切りで糸を切れます。

# 17 ファスナー付け



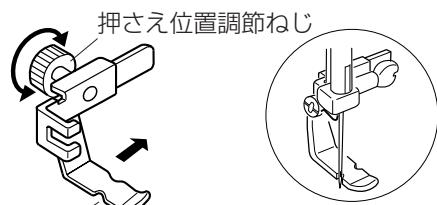
※ 押さえのとりかえは、4 ページ参照。さんしおう

## [むしの左側をぬうとき]



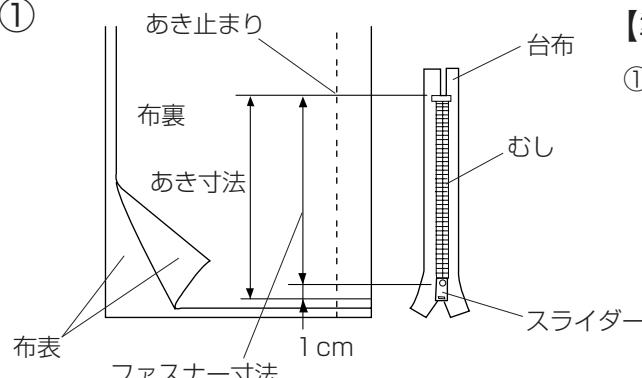
左側をぬうときは、押さえ位置調節ねじをゆるめて押さえの右側のへこみに針がくるように押さえを動かし、ねじをしめます。

## [むしの右側をぬうとき]



右側をぬうときは、押さえ位置調節ねじをゆるめて押さえの左側のへこみに針がくるように押さえを動かし、ねじをしめます。

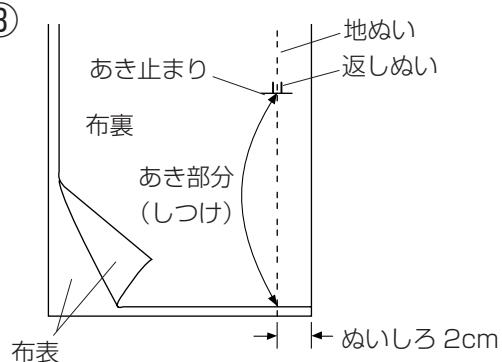
①



## 【準備】(例：左脇あきのぬい方)

- ① ファスナーのあき寸法を確かめます。  
あき寸法はファスナー寸法に 1 cm プラスした寸法です。

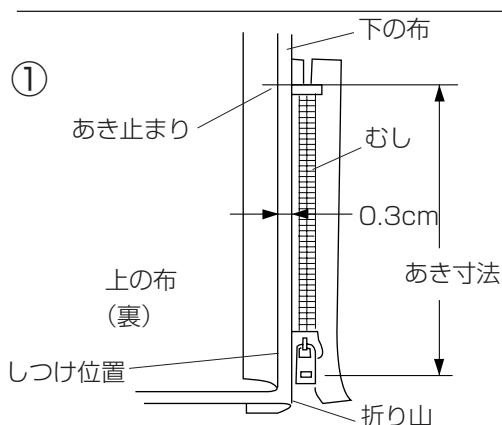
②③



- ② 布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。  
※ 地ぬいの部分は直線押さえを使ってぬいます。

- ③ あき部分のしつけをします。(直線押さえを使用)  
※ しつけは、ほどきやすいように、ぬい目のあらさ「4」(0.4cm)、糸調子を「1」くらいにしてぬいます。  
しつけが終わったら、ぬい目のあらさ、および糸調子をもとの値にもどしてください。(上糸調子ダイヤル「自動」)

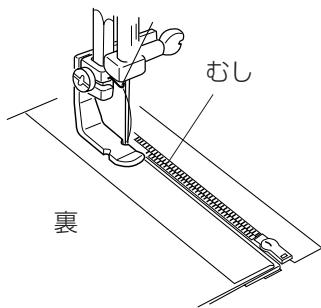
①



## 【ぬい方】

- ① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを 0.3cm 出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

②



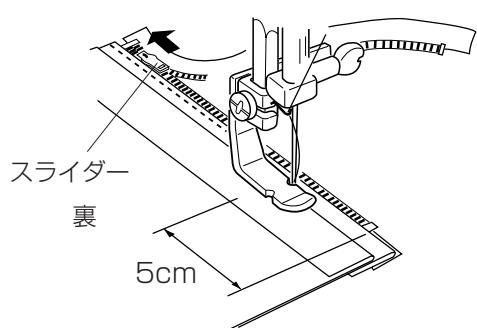
- ② ファスナー押さえの押さえ位置調節ねじをゆるめ、押さえの右側のくぼみに針がくるようにセットして、むしのきわに押さえのはしをあてて、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

\* ぬいはじめのほつれ止めは数針返しみをします。

### ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえにあたらないように注意してください。針があたると、けがの原因になります。

③

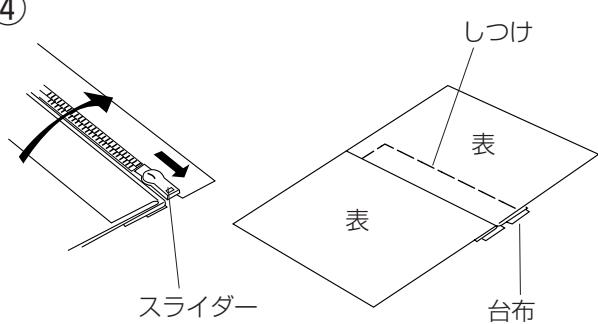


- ③ ファスナーのはしから約 5cm ほど手前でミシンを止めはずみ車を手でまわして、針を布にさします。

押さえ上げをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

\* ぬい終わりのほつれ止めは数針返しみをします。

④



- ④ ファスナーをとじ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。

かぶせた布と台布をしつけで止めます。

\* しつけは直線押さえを使用します。

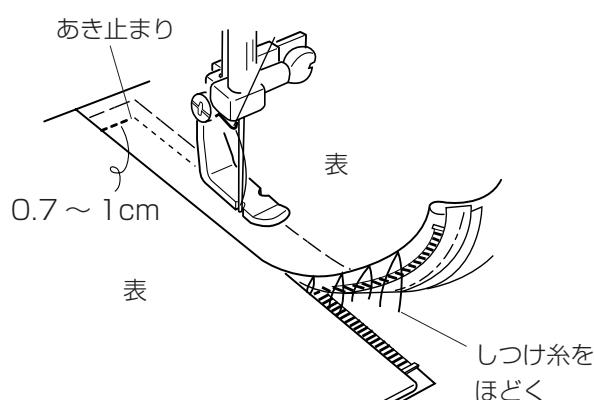
しつけは、ほどきやすいように、ぬい目のあらさ「4」(0.4cm)、糸調子を「1」くらいにしてぬいます。

しつけが終わったら、ぬい目のあらさ、および糸調子をもとの値にもどしてください。(上糸調子ダイヤル「自動」)

### ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえにあたらないように注意してください。針があたると、けがの原因になります。

⑤



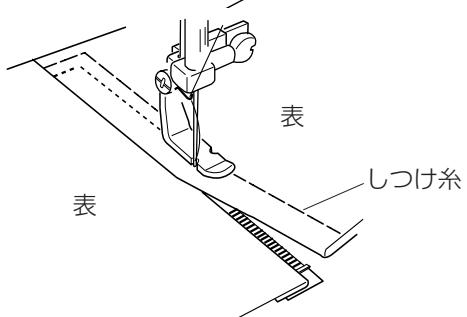
- ⑤ ファスナー押さえの押さえ位置調節ねじをゆるめ、押さえ左側のくぼみに針がくるように押さえをセットして、上の布のあき止まりを 0.7 ~ 1cm 反しみし、むしのきわに押さえのはしをあててファスナーの右側をぬいます。

ファスナーの上側を 5cm ほど残したところで止め、はずみ車を手でまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえ上げをあげて、準備 ③ でぬったしつけ糸をほどきます。

### ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針がファスナーや押さえにあたらないように注意してください。針があたると、けがの原因になります。

⑥



- ⑥ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

ぬい終わりに反しみをします。

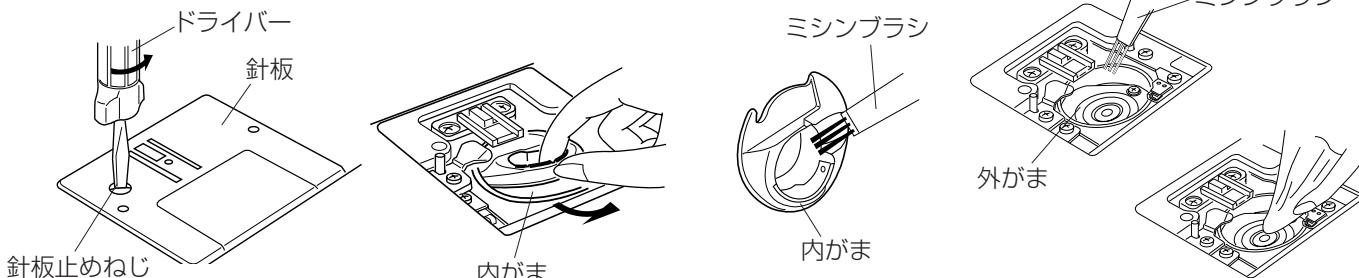
ぬい終わったたらぬい方手順 ④ でぬったしつけ糸をほどきます。

# 18 ミシンのお手入れ

## ⚠ 注意

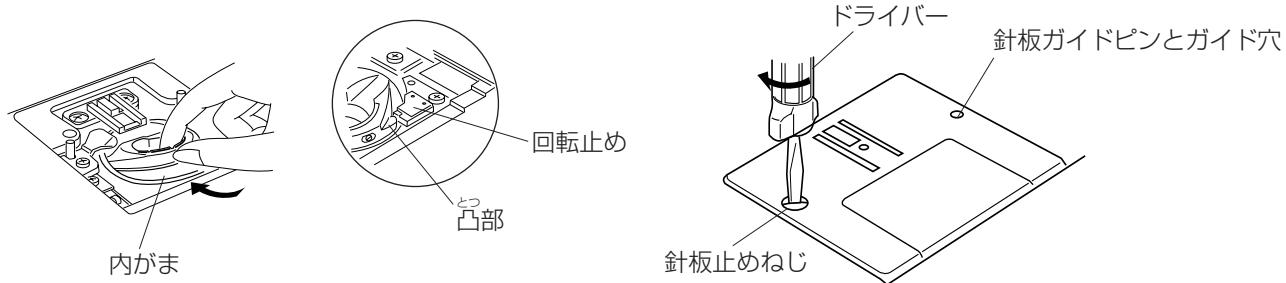
- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。  
感電・火災・けがの原因になります。

### 【かまと送り歯のそうじ】



- ① 針と押さえを外します。 ② ボビンを取り出し、  
針板止めねじをドライ  
バーで外します。
- ③ 内がまをミシンブラシ  
でそうじし、布切れで  
引きながら外します。
- ④ ミシンブラシやそうじ機で  
外がまと送り歯、およびそ  
の周辺の糸くずを取り、外  
がまを布切れで軽くふきそ  
うじします。

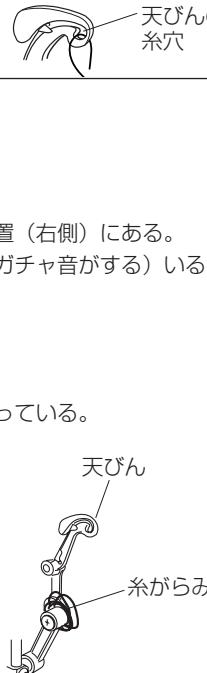
### 【内がまと針板の組み付け】



- ① 内がまを差し込みます。
- ② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
- ③ ボビンを入れ、針板ガイドピンに針板ガイドの  
穴を合わせ、針板を取り付けます。
- ④ 針板止めねじをドライバーでしっかりとしめます。

# 19 ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。 6. ぬいはじめに上糸と下糸を押さえで押さえていない。 7. 糸がかまなどにからまっている。 8. 糸こまに上糸が引っかかっている。	12 ページ参照 8 ページ参照 7 ページ参照 7 ページ参照 7 ページ参照 13 ページ参照 16 ページ参照 糸こま押さえを付ける
下糸が切れる	1. 下糸の通し方がまちがっている。 2. 内がまの中にごみがたまっている。 3. ボビンにきずがあり回転がなめらかでない。 4. 下糸の巻き方がゆるい。	11 ページ参照 16 ページ参照 ボビンを交換する 糸巻き糸案内にしっかり かかっていない 10 ページ参照
針が折れる	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。 3. 布に対して針が細すぎる。 4. ぬい終わったとき布を手前に引いている。 5. 模様に合った押さえを使用していない。	7 ページ参照 7 ページ参照 7 ページ参照 布を向こう側に出す 指定の押さえに交換する
ぬい目がとぶ	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、付属のブルー針を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	7 ページ参照 7 ページ参照 7 ページ参照 12 ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸、下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. 布に対してぬい目があらすぎる。	8 ページ参照 11、12 ページ参照 7 ページ参照 ぬい目を細かくする
布送りがうまくいかない	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。 3. 送り歯に糸くずがたまっている。 4. ぬい目が細かすぎる。 5. 送り歯があがっていない。	12 ページ参照 12 ページ参照 16 ページ参照 ぬい目をあらぐする 9 ページ参照
ぬい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	8 ページ参照 7 ページ参照
音が高い	1. かまの部分に糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。	16 ページ参照 16 ページ参照
ぬい目に下糸ができる	1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。 5. ジャノメのボビンを使用していない。	11 ページ参照 10 ページ参照 12 ページ参照 8 ページ参照 10 ページ参照
ぬいはじめの糸がらみ	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸、下糸を押さえの下にそろえていない。	12 ページ参照 13 ページ参照
うすい布、 <small>じんしゆくせい</small> 伸縮性の布の 食い込み	1. 布に対して針と糸があってない。	7 ページ参照
上糸が抜ける	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬいはじめに布に針をさしていない。	12 ページ参照 13 ページ参照
ぬい終わりに下糸が二重 に出てくる	1. 天びんが上にあがっていない。	はずみ車を手で手前に まわして針をあげる

調子が悪い場合	その原因	直し方
かまに糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。	12ページ参照 かまを交換する 16ページ参照
模様がきれいにぬえない	1. ボビンのセットがまちがっている。 (ボビンの入れる方向／下糸が内がまのばねに入っていない。) 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。	11ページ参照  10ページ参照 12ページ参照 8ページ参照
音がして糸がからまる	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	12ページ参照 12ページ参照
	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに糸やごみがたまっている。 3. ボビンに糸がからまっている。 4. 押さえ上げがさがっていない。 5. 下糸を巻いたあと、糸巻き軸が糸巻きの位置（右側）にある。 6. 上糸が外れ、ボビンにからまって（ガチャガチャ音がする）いる。  7. 上糸が天びんから外れ、他の部品にからまっている。	5ページ参照 16ページ参照 ボビンの糸を確認する 8ページ参照 10ページ参照 上糸かけを確認する [天びんの糸外れ確認]  
ミシンが動かない	8. フットコントローラーを接続したままでスタート / ストップボタンを押している。	からまっている糸を取る [からまっている糸の取り方] 手順 1. 電源スイッチを切る 手順 2. 面板止めねじをプラスドライバーで左にまわして外し、面板を外す 手順 3. からまっている糸を取る 手順 4. 上糸をかけ直す (12ページ参照) 手順 5. 面板止めねじをプラスドライバーで右にまわして取り付け、面板を取り付ける (プラスドライバーは付属にはついていません) フットコントローラーを外す
布裏で糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。	12ページ参照 [からまっている糸の取り方] 手順 1. 電源スイッチを切る 手順 2. 押さえ上げをあげ、ハサミで布裏の糸を切る 手順 3. 針板を外す (16ページ参照) 手順 4. ボビン、内がまを外し、からまっている糸を取る (16ページ参照) 手順 5. 内がま、ボビンをセットし、針板を取り付ける (16ページ参照) 手順 6. 上糸をかけ直す (12ページ参照)

調子が悪い場合	その原因	直し方
ボビンにうまく下糸が巻けない	<p>1. 糸のかけ方がまちがっている。</p> <p>2. ボビンの上 ↓ または下 ↓ に巻きがかたよっている。</p> <p style="text-align: center;">(調節ねじを 右にまわす)      (調節ねじを 左にまわす)</p>  <p>調節ねじ (糸巻き糸案内)</p>	<p>10ページ参照 調節ねじをまわす</p> <p>注意：調節ねじのまわすはんいは 1回転までにしてください。 部品が外れます。</p>
フットコントローラーを ふみ込んで動かない	<p>1. フットコントローラーをふんだ状態で電源スイッチを入れた。</p> <p>2. フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。</p>	<p>電源スイッチを入れてからフットコントローラーをふむ</p> <p>5ページ参照</p>

♪メモ

仕 様	
使 用 電 圧	100V 50/60Hz
消 費 電 力	54W
外 形 尺 法	幅 39.5cm × 高さ 29.5cm × 奥行 18.3cm
質 量	6.5kg (本体)
使 用 針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時 毎分 800 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

## 修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

## 修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じてお買い上げの販売店に供給できる体制を整えています。

## 無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。  
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

## お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。

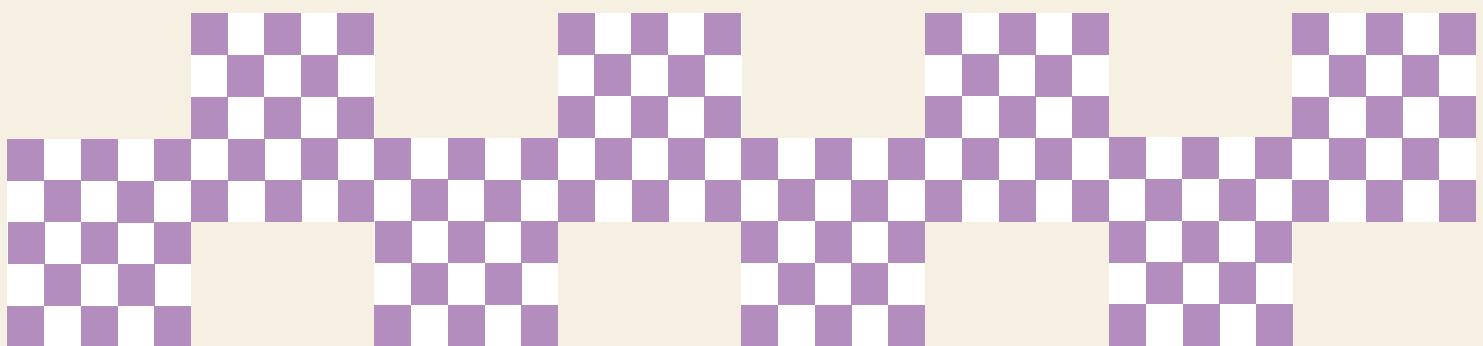
蛇の目ミシン工業株式会社

〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル)  
042-661-2600

受付…平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>  
問合せフォームをご利用ください。



749-800-136